

茨城大学大学院理工学研究科 都市システム工学専攻 令和7年度前期 専攻教育点検報告書

令和7年 10月 10日

報告者 都市システム工学専攻 専攻長 原田 隆郎

1. 実施日時と場所

令和7年9月26日（金）11:10～12:00, 13:00～14:30 TEAMS オンライン

2. 出席者

常勤教員：遠藤克彦，熊澤貴之，桑原祐史，小林薫，原田隆郎，平田輝満，藤田昌史，久野靖広，車谷麻緒，肥田剛典，稲用隆一，増永英治，伊藤大知，一ノ瀬彩，海野遥香，大村高広（全常勤教員17名のうちの16名が出席）

（常勤教員のうちの欠席者：横木裕宗）

非常勤教員：出席なし

技術職員，事務職員：出席なし

3. 添付資料

資料1-1 2025年度（前期）専攻_教育改善委員会議事録

資料1-2 2025年度（前期）都市システム工学科_専攻 FD 研修会議事録

資料2 2025年度（前期）学科・専攻教育改善委員会およびFD 研修会議事次第

資料3 2025年度前期 授業点検改善表集（専攻）

4. 授業点検の実際

4. 1 アンケート実施状況

点検評価に先立って実施した，授業アンケートの回収状況は以下のとおり．

常勤教員担当科目分： 12科目／常勤教員担当科目総数 12科目

非常勤教員担当科目分： 0科目／非常勤教員担当科目総数 0科目

4. 2 点検した科目

前期に開講した専攻科目の総数12科目中12科目（100％）．

構造解析学特論，応用土質力学特論，国土空間情報特論，知的情報処理特論，土木計画学特論Ⅰ，土木計画学特論Ⅱ，水環境学特論Ⅰ，水環境学特論Ⅱ，建築都市計画学特論，建築史・意匠特論Ⅰ，建築都市デザインスタジオⅠ，建築都市デザインスタジオⅡ

4. 3 具体的な点検方法

- ・ 前期に開講した12科目中12科目について，以下の方法で点検を実施した．各科目の具

体的な点検結果は、資料 1-1 の議事録における「点検評価と結果」を参照のこと。

- ・ 3 科目程度のグループ（資料 2 参照）ごとに、各授業担当の教員が担当科目の授業点検改善表（資料 3）等の資料に基づいて、特に前年度の点検評価で出された各科目の課題・問題に対する対応実績について説明し、それに対しての参加教員全員からの質疑・コメントを受ける形で、実施した。
- ・ 随時、提出済みの電子データや、茨城大学 FD/SD 支援システムを参加者が各自で確認し、それに関しても必要に応じ議論した。
- ・ TA を利用している授業は、TA 利用の実際やその効果について授業資料にまとめている。
- ・ 各科目間の成績評価の分布状況を『成績分布表』を用いて確認した。（R3 機関別認証評価対応）

4. 4 （専攻の点検報告書のみ）特別実験、特別演習等の実施状況など

社会基盤デザイン特別演習Ⅰ，建築デザイン特別演習Ⅰ，社会基盤デザイン特別研究Ⅰ，建築デザイン特別研究Ⅰの4科目については、各教員から研究室ごとの状況について報告があり問題なく活動が進んでいることが確認された。

5. 点検評価の結果

5. 1 昨年度の点検評価で出された改善策のフォローアップ

点検を行った全ての科目において、昨年度に改善すべき問題点は改善されていたことが確認された。

5. 2 今回の授業方法で優れている点

「知的情報処理特論」では外部講師による話題提供や演習が新鮮で好評という学生から高い評価だった。「水環境学特論Ⅱ」では自分の PC でプログラミングを行う実践的な形式が学生の受講満足度につながっている。「建築史・意匠特論Ⅰ」では振り返り解説を導入することで、授業スピードに関する不満を解消することを試みた。「建築都市デザインスタジオ」では現地調査やグループワークを通じ主体的な学び（アクティブラーニング）を促進した点が優れている点と言える。

5. 3 今回の授業方法で改善すべき点

「応用土質力学特論」では課題数や提出期限に関する負担感が学生から指摘された。「水環境学特論Ⅰ」では理論中心の講義が飽きやすいとの意見があり、今後工夫（改善）をすることが報告された。「建築史・意匠特論Ⅰ」では資料の視認性に改善の余地があり、「デザインスタジオ」では課題範囲が広く時間内での作品の完成度を担保することが課題として挙げられた。

6. 教育改善活動

会議中に抽出された問題点について、その改善方法を議論したところ、以下のような意見があった。

- ・ 課題量と提出期限を見直し、学生の負担軽減を試みた。
- ・ 理論講義に演習やディスカッションを組み込み、学生の集中力を維持することを意識した。
- ・ 教材の視認性を高めるため、フォントや配色を改善したことが報告された。
- ・ デザイン課題は範囲を絞り、建築デザインに注力できる構成に変更した。
- ・ アンケート回答率向上のため、授業内で回答時間を確保しオンライン回答も併用した。

また午後の FD 研修会では、学生評議委員のアンケート結果を共有し学科として改善できる内容についての議論を行なった。その中では以下のような意見があった。

- ・ 講義資料の配布方法が複数あるという指摘について、Teams を使用している教員から、Teams の場合、情報の共有がしやすい、オンラインでつながりやすい、学生の発表がある場合に便利という意見があった。大学の方針としては、manaba の使用を推奨していることが示された。
- ・ レポートを返却してほしいという指摘について、返却可能な場合は返却しており、難しい場合は返却できていないという意見があった。個別に全ての項目について詳細に学生へフィードバックすることは現実的に難しいという意見も出た。
- ・ 研究室の仮配属の活用方法、指導方法、必要性、今後の課題について意見交換が行われた。

さらに、大学院生の授業への受講態度が良くない点が指摘された。その中でも特に学部 4 年次に早期履修している学生の受講態度や出席率が悪いことが課題として挙げられた。受講生のモチベーションを向上させるとともに、早期履修制度の設計に対して今後検討や改善の余地があることが確認された。

7. 報告書の開示

この報告書と同じ内容の書類を Teams 内に設置した学科 FD チャンネルに保管し、学科の全教員が自由に閲覧できるようにした。

8. 『産学連携カリキュラム改良委員会』を受けての教育改善活動について

直近の産学連携カリキュラム改良委員会における議論を受けて、FD 研修会では学生のモチベーションをいかに向上させ、学習を促していくかについて議論を行い、学年別の成績分布等を比較し、近年の学生の学習状況を共有し適切な授業方法等についての議論を行なっている（資料 1-2 参照）。

現状の授業内容について土木・建築で共通する内容や、年次進行している新カリキュラムの融合教育のメリットなどを整理し、今後の授業内容の改善について引き続き検討を続けることになった。

9. その他

特になし。